

市民活動見学会報告

開催概要

日時：令和8年1月30日（金）午前10時～12時

場所：育ちとつながりの家ちとせ（亀岡市千歳町）

見学者：1名

見学者の目的

近所に住んでいて子どもが通っているのはよく見かけるが、実際にはどのような活動をされているか知らないなので、見学したい。

見学先：一般社団法人 育ちとつながりの家ちとせ

見学先の概要

不登校・行き渋り・育てにくさのある子どもに向けて「応用行動分析学」に基づいて論理的に、そして具体的に子どもの困りの根本的な要因に働きかける活動をしている。

内容

見学のはじめに設備の紹介をしていただきました。一軒家の一階には自由に使える部屋が3部屋ほどあり、オセロやヨギボーなど様々な道具と本がありました。外には庭がありボールなどを使って体を動かせるスペースのほかに、クッションに囲まれた粗大運動ができる部屋がありました。その部屋では、作業療法士による感覚統合のトレーニングを受けられると説明を受けました。このトレーニングでは自分の体や動きを上手く認識できない子どもさんが、実際に体を動かしてその感覚を身に着けることができます。それによって、ボール遊びなど体の機能をうまく使う必要がある遊びができるようになり、子ども同士の遊びを通じたコミュニケーションにも参加していけるようになるそうです。

10時30分ごろから子どもさん全員でのミーティングに参加しました。まずボールを使って一言ずつ自己紹介をしました。自己紹介では名前や年齢、好きなこと、今頑張っていることを発表しました。好きなことや今頑張っていることはじっくり考えながらも、全員元気に発表してくれました。その後スタッフの方から見学者の方が元警察官なので話を聞かせてほしいという意見出て、見学者の方が警察官になられた経緯や警察官として何をされていたかを話していただきました。特に見学者さんが十代、二十代のときの経験を多く話していただき、子どもさんがイメージしやすく皆さんとても興味をもって話を聞かれていて、子どもさんからの質問もありました。ミーティング後半では、午前中に全員で何をするか決めました。話し合いの結果、3つのグループに分かれて、小さなお家づくりをすることに決定しました。この活動は、一つのものを作り上げるため、子どもさん同士のコミュニケーションを取る練習になると解説していただきました。発達神経症の特徴の一つには、対人コミュニケーションに難しさを感じる、人間関係の構築に難しさを感じるというものがあり、見学当日はされませんでした。アイコンタクトが必要になる活動や対人コミュニケーション方法を学べる活動をされているそう

です。

最後に、代表の石田さんと見学者でお話をしました。石田さんからは、育ちとつながりの家ちとせでの活動だけでなく、家庭での子どもとのかかわり方をサポートする重要性を聞きました。また、子どもたちが将来社会に出て自分らしく生きていける力を身に着けることを、高校や大学に進学するというわかりやすい指標よりも大事に考えていることを語っていただきました。見学者の方は、地元に住んでいるが、活動の内容を初めて知りとても重要なことをされていると感じたので、地域の人にも知ってほしい。また、今後ご自身がされている市民活動でも活動を紹介してほしいとおっしゃっていました。